

国際サーカス村通信	VOL14NO01	2009年9月7日(月)
		文責 西田 敬一
編集 NPO 法人国際サーカス村協会	〒376-0303	群馬県みどり市東町座間 41-1
Tel0277-70-5010 Fax0277-97-3688 <a href="mailto:mura@circus-mura.net">mura@circus-mura.net</a> <a href="http://www.circus-mura.net">http://www.circus-mura.net</a>		

## 発表会に、背中を押される

今回、サーカス学校8年間終了の発表会を終えて、感じたことを端的に述べると、生徒たちの演技に背中を押された気がしてならないのだ。

今回の発表会がこれまでと大きく違ったというわけではない。いや、大きく違ったが故に、それが僕の背中を大きく押したのだろう。それは、演技に関わることである。演技はこれまでのものと違い、ある一線を越えた。これも僕が感じたことに過ぎないかもしれない。だが、それはぼくになにかを強いた。それがなにかといえば、彼らの演技が発表の場所を求めているように思えたのだ。

その発表の場というのは、自分たちの演技を見せることができる場ということなのだが、これは簡単なことではない。地上の芸はともかくとして、空中芸となると、やはり高さのあるところでしかできない。それだけの場となると、ある程度の劇場でありまた空中モノがつれる空間ということになるし、またショーとしてそれなりの作品になっていなければならぬ。昨年、渋谷の児童会館で公演したが、その時は、ある種のチャレンジの気持ちだったが、ここまで育ってきた生徒たちの技を見せるのであれば、もうひとつ上のレベルで作品化して見せる必要があるだろう。

ということ考えたのだが、実は、それもまたなにかが違うような気がしている。

必要なのは、常時、技を見せられる空間が求められている。ぼくの背中を押した、生徒たちのある水準に達した演技はそのようなものであった。

あるいは、彼らが身につけた演技を常時とまではいかななくても、年間を通じてそこそこの日数、公演できる場があれば、僕が背中を押される必要もないだろう。言いかえれば、日本に限らず世界のどこであれ、サーカス団に所属してその演技を見せればいいし、そのような実力が身につけてきたといえるのだが、ところが、これまたなかなか難しいのはいうまでもない。海外のサーカスで働くとなると、コトバの問題もある。いわば、身につけたサーカス技以外に学ばなければならない様々なことがあるし、そうしたものに関しては、まだまだ不十分なのである。

それは僕の問題ではなく、生徒一人ひとりの問題なのだが、僕としては、これからやるべきことは、演技可能な場、いわば、ぼくらのサーカス劇場をつくらなければならないということである。

簡単なことではない。既存の劇場、場ということでは、まず、それらを作りだす資金が用意できるはずもない。サーカスができる劇場を作りたいと呼びかけても、その資金提供者があらわれるだろうか。期待はできない。期待できないからといって、その可能性のつけからドブに捨てる必要もないが、過大な期待は、ぼくらの動きを封じるだけである。

だが、それは横に置いて、なにができるかを考えなければならない。自由にものを

発想し、行動することが極めて困難な状況にあるとはいえ、ぼくらはこの社会に無数に存在する亀裂を見逃さず、そこに杭を打ち込むようにして、ぼくらの場がどのようにすれば、可能になるかを追求しなければならないだろう。

## 09 カンボジアサーカス日本ツアー

07年の沖縄キジムナーフェスタに参加し、その後、福岡・太宰府市、広島、京都、大阪、松本、白州、さらにはみどり市、そして東京公演と、ハードなツアーをこなし、翌年には野外民族館リトルワールドで3ヶ月間の長期公演を実現した、サーカス村・サーカス学校と交流を続けているPPSのサーカス団が、今年は、東京（座・高円寺）沖縄（とまりんフェスタ、キジムナーフェスタ）新潟（大地の芸術祭）と、計14公演を行なった。

東京と沖縄は「エクリプス（月蝕）」、そして新潟は「カンボジア ぼくらの村で（ブンスタイル）」と作品が違えば、出演者らも一部異なり、来日メンバーの送迎仕事は煩雑で、苦労も多かった。がそれ以上に、悩まされたのは、天候であった。沖縄では、台風7号に余波を受け、テント公演の一部を室内で行なうことを余儀なくされた上に、雨との戦いで、毎回、舞台の設営し直しで、舞監などスタッフには大変な苦労を強いることになった。

皆さん、有難うございましたとこの場を借りて、御礼。

このカンボジアPPSとの交流では、いつか、サーカス学校の生徒らとなにか共同で作品作りができないかと思っているが、この道はまだはるか先のような気がしている。言葉の問題が大きいですが、それを含めて、それぞれを取り巻いている環境が違いすぎるので、なにを共通の基盤として、そこになにを作り上げていくかをしっかり検討しなければならないと思うからだ。

## 9年目前期授業開始は9月15日（火）から

サーカス学校は9年目にはいる。この9年間の成果は色々だが、成果とは別に、大きな流れとして感じていることは、“発表会に、背中を押される”で述べさせてもらったが、サーカス学校は生徒を育てるといっても一緒に模索しつつ活動してきたという感じが強い。それだけに、目標はそれぞれの生徒が立てなければならないし、僕らもまた常に問題の核をしっかりとつかんで、その解決に努力してこななければならなかったし、この道は今後も続くということだろう。

生徒たちの自主性と協調性を、今後の課題の一つとして取り組んでいきたいと思うのは、作品作りを次なる目標の一つにしたいからである。一人ひとりの演技ではなく、ショーとしての作品を作るとなると、いろいろな意味で協調性が必要になってくるのはいうまでもないのだが、さて、どのようなことになるか。サーカス演技以外の演技というか、舞台の上での相手とのコミュニケーション、演技的なことを学んできていないので、さて、どのようなことになるであろうか。とりあえずは、今年12月の発表会に向けて、試行錯誤を続けていくことになるだろう。

## 岡田直人、ヨーヨー世界大会で優勝

去る8月13日から15日、フロリダのオーランドで行なわれた、“2009ワールドヨーヨーコンテスト、オフストリング部門”で、岡田直人君が優勝。念願の世界チャンピオンになった。

このコンテストでは、2A部門でも、1位から3位まで日本人が独占したという。

ヨーヨー、ディアボロなどは、世界ではさまざまな競技大会が、開催されているようで、あちこちの大会で、日本人が活躍している噂を聞く。

そうした大会で、優勝することが、とりあえずの目標になっているようだが、その目標を叶えた以上は、その技を生かした次のステップにすすんでもらいたいと思う。次のステップとは、技で拍手をもらうのではなく、その技を使い、別の世界を表現することである。

岡田直人君にも是非、次のステップを目指してもらいたい。

## 次回月例会

議題 “国際コントーション大会 IN ラスベガス” 報告

報告者 長屋歩未

日時 2009年10月2日(金) 18:00~21:00

場所 千駄ヶ谷区民会館和室

問合せ 03-3403-0561 (ACC)

\*なお、次々回月例会は、総会の予定。今後のサーカス村、サーカス学校のあり方について、みなさまのご意見を予め伺えればと思いますので、ご連絡ください。

ひとつには、サーカス村として、都内で常時使えるスペースを確保できないかということです。サーカスの空中モノの演技ができるだけの高さ・スペースがあれば、いうまでもありませんが、それほどの高さのあるスペースでなくともいいのですが、ちょっとした公演のできる空間を手にいれられないかということです。

ぜひ、情報をお寄せください。

## 7月例会報告『フール祭意見交換会』

6月8日から14日まで、両国シアターXで開催された第5回東京国際フール祭について、出演者、観客、制作者が、それぞれの立場から意見を交わしました。

大野 彼の公演は見ましたか？例えば『1+1』はどうでした？

ななな 楽しかったです。相手が変わると、あんなに変わるんだなと。特にリズムが変わりますよね。スピード感があって良かったです。

- 大野 日出席できないチカパン(『A』に出演)から感想をメールで送ってもらいました。要約しますと、「制作面などを気にせず、創作と演技に集中しながらシアターX のような劇場で表現できたこと、客層を広げるためにも、新しい出会いが出来たことなどありがたい機会でした。なななちゃん、チーズさんと一緒に稽古できたこと、ACC 大野さんも交えて、創作課程で作品に対して忌憚のない意見交換が出来たことは、大きな意義があり、自分にとっても収穫でした。自分の作品に意見されるのは恐ろしいですが、それを面白いに変えていかないと意味がない。なななちゃんの作品をみていて感じたのですが、オムニバス公演は順番の出番だけでなく、例えばもっと前半に大笑いする彼女が舞台を横切るとか、公演の全体の伏線になるような演出ができて良いなと思いました。また、自分の出番が10分となると、特に自分の場合は直後にソロ公演を控えていたので、なかなかチケットを売ることが出来ませんでした。すみません」とのことです。自分の出番が10分だと、チケットを売りにくいというのはあるかもね。
- 西田 まあ、それは良い悪いではなく個人の事情があるのでしょう。でも、いろんな人が沢山出演するから、いろんな人が見に来られるのがこちらの意図なわけだし、仕方ないと言えば仕方ないよね。いろいろな客層にいろいろな作品を見てもらうのが一番よいわね。
- 大島 俺の知り合いで、あまりこういう公演を見たことがない人が、チラシを見て色々見られるから『A』を一番見たいって。そういう人が多いかもしれない。その人は実際『A』を見て面白かったって。
- 西田 そういう意味ではパントマイムだけの公演とは違うと思う。様々な公演があって、お客さんがそれぞれ見てくれば、それが良いよね。上島さんご夫妻はいかがでしたか？
- 上島敏昭 僕は『A』、『1+1』、『A WONDERFUL WORLD』を見ました。それぞれに特色があって面白かった。そして何よりもお客さんが沢山来ているというのが良かったですね。僕らの仲間の金子さん君が出ていたので『A』は興味深く見ていたんだけど、皆、作品の作り方、やろうとしていることがはっきりして面白かったですね。光洋さんとコ・ジェクションさんはアジア人だから似たような面持ちだけど、だいぶ感覚や作り方が違うなと思いました。トイレに行くシーンなんて日本ではあまり作らないだろうし、日韓の笑いのツボの違いが面白く、そして不思議でした。BP ZOOMは3つくらいのシーンが組み合わさって面白いなと思いました。うまく作るものだなと。紙飛行機はフランスでもあるんですね。小道具をうまく使いますよね。
- 上島由紀 今回のフル祭は『A』と『1+1』の2つプログラムを見たのですが、フル祭というのはいままで外国の人、アメリカ人以外のパフォーマーが出演する印象がありました。フル祭はいつも女の人のパフォーマーがいて良いですね。割と若い女の人で大道芸をやる人もいますが、しばらくしてやめてしまう人が多いし。そういう意味でもよかったですよね。『1+1』はコーさんのソロの時、やはり日韓の笑いのツボというか、感覚の違いをととても感じました。2人での作品は、以前、光洋さんとふくろこうじさんとで同じ作品を演じているのとは、また違いがあって、面白かったですね。
- 西田 ACCからも何かないですか？新入社員の長屋君からは？
- 長屋 フル祭は「愚か者のお祭り」とうたっていたので、もっとばかばかしいものが多いのかと思っていたら、芸術的な作品が多かったです。その中でもなななさんの作品は、私がイメージしていたフル祭っぽい感じがしました。クラウンとかパントマイムの作品をちゃんと見たのは初めてだったのですが、すぐ引き込まれました。90~120分がこんなにあっていい

う間なんだ、と思いました。

西田 金子さんは、僕の感覚だと最初「何で皆さんがフル祭なの？」と思ったのですが、洋子が「面白い」って言ったから、それだけなんだよね。これは反省を含めた話けど、要は良いと思う感覚があれば、何でも良いんだよね。元々フル祭のジャンルはクラウンとかパントマイムだったんだけど、くくりきれないから「フル祭」だったところもあるんだけど、別にジャンルで切る必要はまったくないよね。今回皆さんに出てもらってそれはとても感じた。だから何でも出てきてもらってありだなと思う。僕ら自身の考え方を広げていけば、色々な可能性があるよね。

上島敏昭 韓国のコさんのソロ作品を見て思い出したんですけど、韓国のカンヌンの端午祭で見たストリートパフォーマンスでは、トイレに行くシーンがいくらでも出てくるんです。最後にそのときにかけていた音楽のテープを売るのだけど、あれは何？って学者さんに聞いたら「あれは乞食だ」って言われた。日本ではクラウンやっている人で狂言から来た人はいないんだろうけど、韓国ではそういう伝統的なパフォーマンスから、パントマイムとかに行く人がいるのかもしれない。

西田 なんのテープなんですか？

上島敏昭 彼らの歌です。パフォーマンスしているときにかけていた音楽。でもテープ買ったんだけど、かなりいい加減で途中で切れたりしている。

西田 韓国の昔からの大道芸なんかは卑猥なものが結構多い。

大野 みんなその卑猥な所でウケるんですか？

上島敏昭 大笑いですよ。大喜び。他にも火吹きをしたりすると、すごい人が集まるんですよ。そういうのを思い出すと、僕はコさんのこの間のソロの作品に関しては、そういうものに近い所があるなと思ったんです。

大島 ななちゃんは韓国でコさんを見たことあるんじゃないの？

ななな ええ、7年前くらいに見たことがあります。お客さんはものすごく笑っていて、今回のフル祭で演じた作品も見ることがあります。

西田 奥田さん(コさんの来日をコーディネートしてくれた韓国在住の日本人パフォーマー)の話では、今回は古い作品をあえて演じたいですね。それを日本でやりたかったから。

ななな ええ、そうだと思います。韓国では彼はわりと大御所で、非常に有名なパントマイムの方なんですけど、韓国でもマイム界に派閥のようなものがないわけではないのですが、彼は独自の線でやっています。いまでは韓国のパフォーマンスは下ネタのようなものは減ってきていると思います。日本で増えてきているコンテンポラリーなものよりは、割とストーリーを重視したものが多くみえます。コさんは今、あまりコメディ作品はやっていないと思います。

西田 あえて昔の作品を演じたということは、難しい作品は避けて、フル祭に合わせてお客さんが笑えるようなものを選んだのかもしれないよね。kajaは参加してどうだった？

Kaja ああいう劇場で演じるのは久しぶりで、楽しいと言えば、楽しかったですね。舞台だとお客さんの顔が見えないし、お客さんの顔を意識しながら演じる必要はないから、ある意味楽だなと思いました。声は聞こえてくるから、とりあえずそんな感じで見てるんだろうな、って。

大島 面白いね、その感想は。

西田 今回の作品は、他でも公演したりしてるの？

Kaja いや、初めてです。アイデアは前にやっている物をくっつけたりはしているんですけど、基本的に普通の事から始めて、少しそこから離れて、最後また戻ってきて終わりにしようかな、と。最後にもどってきて、ちょっと良くなったようにしようかなと。最初タバコが吸えなかったのが、吸えるようになった、って事だけなんですけどね。ぐるーっと回って、元に戻って、ちょっと良くなった、そう思ってくれば良いかなと。

西田 ななは、参加してどうだった？

なな 楽しく有意義に過ごさせていただきました。でも一番ありがたいと思ったのは、前からやりたかった事、笑ってるだけというものをやらせてもらえたということです。普通の舞台だと、お客さんを集めて、ある程度納得してもらわなきゃいけないと思うので、なかなかこういうのは出来ないのですが、今回こんなある意味リスクが大きい作品をやらせてもらえたというのは、ありがたいと思います。やっぱりああいう作品は出来るところが限られていて、フル祭でしか出来ないと思うし。稽古の総見の時にダメだったら他のものをやろうと思ったのですが、背中を押してくれて、やって良かったなと思うのが、ああいう作品はちょっとでも嘘があると、一瞬でお客さんが引いていくというのを肌で感じる事が出来たことです。ストーリーで作ると、それを信じ込ませたりというのがありますが、この作品は嘘だと分かると、もう嘘としか見てもらえないので、すごく恐いことだなというのが肌で感じる事が出来ました。

西田 引いていったのは二日目だよ？それはロビーで聞いていてわかったんだよ。ななの笑いの声がちょっと変わったんだよ。

なな うわー、そうですか。そう、心の揺れみたいなものが全部出てしまうから。それをどーんとああいうことが出来るようにならないと、やったらまずいなと、あとで反省したんですけど。そう、もっと敏感でないといけないと思いました。

西田 いや、かえってもっと鈍感でもいいかもよ。どちらにしても中途半端だといけないってことだよ。揺れがあるとばれてしまう。では、チーズはどう？

チーズ まずは、ありがとうございました。舞台をやるのが久しぶりで、スタッフの人たちにどこまで協力してもらえるのかとか、分からないことが多く、ここまでとても長い道のりだったのですが、終わってみるとやはり舞台は良いなと、またやりたいなと思いました。オムニバス公演は、オープニングみたいに全員が出てくるシーンがあってもいいのかな、と思うのですが、さっきのチカちゃんの見解にもありましたが、笑っているなななさんが途中で出てきたりしても面白いかもしれないですね。

Kaja 特に Le Carre Curieux のボールが残っちゃった時、一生懸命小声で話しながら、舞台監督さんが拾うことを考えているのですが、時間もかかるし、なんなら俺が取りに行っても、良いんだけどな、と思いました。そんなに完全に物をはかしたり、次に繋げるために暗転を長くしてまで、こっそり拾いに行く必要はないと思いました。サーカスでクラウンをやってたときは、出番はしょっちゅうあったし、楽屋に戻ることはまずなかったし、ずっとモニターみながら袖にいましたし。そう思うのは癖ですかね？無理にする必要はないけど、もし必要あれば、出演者がなんかやっても良いのかなって。

上島由紀 金子さんさんのときに kaja さんがやってた「めくり」が一回しか出なかったですよ。タイトルだしをして、その間に転換してもよいですよ。

チーズ フール祭というのはいつも見る人がかしまっちゃうところがあったと思うのですが、今回はもうちょっとくだけてますよね。そういう雰囲気は良かったと思います。

大島 今回は一般の、初めて見るお客さんが多かったから。何の知識もなく、新聞をみて来た人も多かったし。そういうのもあったと思うよ。

西田 あとは、さんさんの登場が大きかったと思うよ。あれで肩の力が抜けたというか。

ななな フール祭ってなんかコンベンション的なイメージが強かったから。「エントリーナンバー何番」みたいな、そんな印象がありましたよね。

西田 上島さん、今日オムニバス A の出演者が 3 人来ていますが、一人一人に対して何かありませんか？

上島敏昭 大変面白く見させていただきましたよ。さんさんのはいつもと同じことやってるから、お客さんの反応の方が気になったんだけど、シアター X は広すぎますよね。あとは客席が暗い。彼の芸はもう少し客席が明るくないと。そして一番最初ではないんですね。前後に知らない人がいてあの人じゃないと、ただ観客は驚くだけだから。でも良かったですよ。kaja さんとなななさんは、時々いろんな所で見させてもらってますが、ああ、こういう事がやりたいんだな、と思いました。さっき作り方を本人の口から聞いて、なるほどなと思いました。お二人とも自分に課したノルマがあったように見えただけで、それが見受けられた。僕はそれが良かったと思います。チーズさんは初めて見ましたが、リングでジャグリングをやるのかと思ったら、感情表現を作っているのが見えて、それも面白く観させて貰いました。なななさんの泣く作品も僕は好きなので、ああ、その逆できたのかと。

大野 もう、シリーズできますよね。

西田 僕は kaja の見てて、彼が別のキャラクターをやってみたらどうなるんだろうな、と思いました。kaja は割といつも kaja で出てくるよね？

kaja そうですね、僕は恥ずかしいんですよ。ばれるのが怖いんです。

西田 だから、彼が他の人間で出てきたら、どんなことやるんだろうと、そんな事思いながら見てたんだよね。

大島 オムニバス A に限って言えば、kaja が昔 planB でやったのをすごく思い出したんだけど、面白かったよね。そういえばななちゃん、フィリップ (BP ZOOM) に何を言われたの？あいつ俺の後ろの席でななちゃんみながら、笑っぱなしで、凄くうるさくて。

ななな 「フランスでやりなさい。笑ってるキャラクターをもとに、もう少し広げたらどうか？フランスでやったら俺が演出するから」って。

大島 あの笑うのをやろうと思ったことはすごいと思う。あれはいつ頃考えたの？

ななな 少しさかのぼりますが、クラウンについてすごく、ものすごく考えた時に、段階を踏んで「何をやるか」「どうやるか」から最後に「どう居るか」になると思っていました。やっぱり「どう居るか」というのをいつかは追求して鍛えなきゃいけないな、というのは昔からどうしたらいいんだろうと思っていました。最近大道芸をやっていると、だんだん客に媚びてしまう。そして媚びないと出来ないと思って。私はそっちじゃないかと、悩んでいて。だから最近大道芸をすっかりやめてしまった。フール祭の作品も考えなきゃいけないし、悩んでいるときに、重森君の舞台をみて思ったのです。彼がダンスの公演で、少しお芝居をしなくてはならない作品で、それはまさにシアター X で見たのですが、ダンサーは凄く鍛えられた存在なのに、芝居の部分がつまらなくて。

でも、その後の踊りの部分の方は凄く引き込まれたんです。そのときに思ったのが、この

空間は、この舞台は、まさに「どう居るか」を求められる劇場だと思いました。重森君の肉体をみてそう思ったんです。前々から思っていたものを、挑戦しなくてはならないかなと思いました。だから、なるべく何もしないということをやりたいのだけど、何もしないで10～15分、お客さんの前に出ることは出来ない。だったら人間の感情の一つを大きくするしかないと思って家で一通りの感情をやってみたのですが、怒るというのはすごく難しい。どうやっても10分は怒れないんですよ。魂の怒りのようなものがないと出来ない。楽なのは、めそめそ泣いていることなんです。笑いを選んだというのの一つの理由として、最近からだを内側から鍛えることで、呼吸と肉体について考えることが多くて、笑いというのは呼吸とつながりがあって、その呼吸から体を動かすことが出来るなと思いました。

大島 チーズのは総見などで、最初から見ていたから、課程を見たときにどうなるのか不安だったのですが、舞台を見ていて凄く綺麗に見えたとし、感情表現が見えたのも面白かったんですが、どこかで、単純に綺麗に見せようという以外のところが見えると、もっと面白いかな、と思いました。

チーズ 10分くらいで何かを表現するというのがすごく難しく、何をやり始めたのか分かってもらえるような時間で収めなくてはいけない。感情表現をするならもっと緩急をつけて表現しなくてはいけないと思うのですが、時間が難しく、結局技に走ってしまった。

大野 私は、kaja はやっぱりクラウンだなと思いました。ぐるっと戻ってきたところなんか特に。

Kaja いろいろやってみてやっぱり僕はクラウンになりたいんだなと思いました。

大野 結局タバコを吸えなくて、タバコを吸うだけというそれだけの話だと思うんだけど、それだけのことを回り巡ってやるわけですね。

大島 最後にタバコを吸うのが、吸えるのがクラウンだと思う。マイムとかはオチがなくてもいいように思うんだけど、クラウンは何かオチをつけないといけないよね。

大野 チーズちゃんもクラウンなのかなと思いました。本人気づいているのか、気づいていないのかと思うようなギャップがあるんですね。両極端のキャラクターが存在するような、その差と間があるような気がした。そのギャップをうまく出来ると凄く面白いんだと思いますけど。ななちゃんはやっぱりチャレンジャーだなと。ベルニー (BP ZOOM) と少し話したんですが、笑いというのはクラウンにとってすごくデリケートなものだと思う。クラウンのロジックについて知り、そこを壊すというのがいいのではないかと、僕はその方が安心だな、と彼は言っていました。

西田 笑いには確かにいろんな種類があると思うけど、あまり文法的な型にしたような笑いは、今回なながやろうとしてる事とは違う気がする。笑いの意味をあまり持たせない方が、良いと思う。

大野 今居ない人達、というところでは、to R Mansion ですが、基本大道芸でやってることだと思うし、私は元気があって好きなんです。もう少しはじめてよいのかなと思いました。チカちゃんは、月を手にするために登っていく「木」が見えてすごくよかったなと思います。チカ、チーズ、ななちゃんが一緒に練習しているところを観に行くことが出来たのが良かったです。やっぱりこういう意見交換が出来るのがフル祭オムニバスだよな、と思いました。演出とかそういうことではなくて、作っていくときに加わりながら、だから制作している私達も人に「観に来てね」って言えるし、10分にしたのは全体の尺を考えて決めたのですが、まあ今後考える余地はあるかなと。金子さんが一番で良いのかどうか分からないのですが、でも私はお客さんをびっくりさせたかったんですよ。



上島敏昭 いやいや、あの並びの中ではざんは一番しかないですよ。

大野 2つやっていたいただきましたが、ぜひ2つとも見ていただきましたかった。

西田 to R mansionはどうでした？

上島敏昭 僕は『オムニバス A』しか見てないのだけど、グループでやるというのは難しく、大変だと思うし、ああいう作品を舞台上でも大道芸でもやっているということは、すごいですよ。ルパンの曲でもあんなに種類があるというのは驚きました。ああいうことをやると、結局音先行になりますよね。だから音を探すのも大変だと思うし、でも音があって合わせられれば形になるんだなと。

ななな Aは一緒に出てるので見られないのですが、オムニバス Bは見ました。面白いと思いますが、五人囃子を見てみたい気がするんです。楽しんでいるのかもしれないけど、楽しんでいるように見えない時があって。余裕がないというのか、そこまで細かく作り上げることよりももう少し出演者それぞれに余裕があった方が、そうしたらきっと見る方も楽しめると思うんです。

上島敏昭 思うのは結局作品ではなくて、やっぱりその人そのものなのだなと思います。もちろん作品として、アンサンブルとして面白いものはあるんだけど、最終的に作品を面白くするためにはそれぞれに力がないと難しいと思います。あれはあれで難しいと思うけど、それこそなななさんが言うように、個人としてすごく力がないと、流れの良さなど形で落ち着いてしまうと思います。でも、ああいう存在はとても貴重だと思いますよ。だからこそ、もう一つステップアップするにはそういうところだと思いますね。

西田 今後の事を考えると難しいよね。いまの形でうまくいってる部分もあるし、今のあの形を崩すのはとても大変だと思う。

上島敏昭 グループで作品を作っているところは少ないから、続けてもらいたいですよね。グループでやるということは、うまくいなくなる要素はいくらでも出てきますからね。

西田 そうだね、グループを継続していくという事の難しさはそこだね。そこを何とか乗り越えてもらいたいんだけど、それを繋げるのは作品の力だと思うし、そうならないと良い物にはならないと思う。さっき個人の力って話が出てきたけど、世の中の芝居が面白くなくなっているのは、実は逆だと思う。作品として、いつまでたってもきちんとした物にならないから、演技する側がそうになってしまう。良い作品ができればそうはならないと思う。

上島敏昭 とところでACCはなぜフル祭をつづけているのですか？

西田 最初の動機は、デミトリーなりミクリーチをやってて、いつか一同に介してやりたいと思うようになっていった。一つずつ見るのと、いくつものものを同時に見るのとだと印象も変わるし、日本のパフォーマー達に刺激になるだろうと思った。だからコンGRESもやって、絵画もやって、映画もやって、僕が考えているクラウンの世界をやりたいかった。それはもう採算度外視でやって赤字いっぱいで大変だった。僕はクラウンカレッジ的なものや大道芸クラウンの世界に否定的だった。それは今でもそうだし、それだけだったら良い物は生まれてこないだろうと思っているので。劇場できちんとした形で見せないと良い物はできないだろうし、だからってシアタークラウンとか言われると、そんなもんじゃないだろう、とも思う。でも劇場でしっかりと作品作れてなんぼだと思うしね。でもいまや、そんなに海外のものと日本のものが離れているわけではないし。あと、呼ぶとお金もかかるしね。今回はうまくいってしまったからね。だから次はすごく大変になるよね。成功したとはいえ、もう同じ形の成功はあり得ないと思うから。次はどんなことやったら「アレッ面白いぞ」

て思えるものを出来るだろうか？今度はどういう物をフル祭に入れ込めるかを考えないと。

今回は、ここにいる出演者が皆新作で臨んでくれたのは嬉しいよね。

上島敏昭 表現の幅が広がりましたよね。ざん君の話に戻るけど、クラウン、パントマイム以外の世界でもフルというテーマを入れられると思うんだよね。伝統的な世界の物を崩している人たちもいるし、そういう人たちを入れても面白いかもしれないですよ。

西田 少なくとも僕ら自身ももっといろいろなものを見たり、いろいろな関わり方をしていかないと良い物は出てこないかなと思う。クラウン、パントマイム以外でもダンスとかオブジェクトシアターみたいなものが入っても良いと思うね。

上島敏昭 まあ、お客さんあってのものですから、お客さんがいないと始まらないし、どうやってお客さんを作っていくということもあると思いますね。難しいけど、大切なところですよ。次はいつやるんですか？1年後？2年後？

西田 2年に1回くらいにしたいよね。

《出席者》 大島幹雄、大須賀哉子、大野洋子、上島敏昭、上島由紀、チーズ、長屋歩未、ななな、西田敬一、kaja(敬称略 辻卓也 記)

# 各サーカス団白書

## 木下大サーカス

福山公演 2009年10月10日(土)~2009年12月8日(火)

休演日 10月14日(水) 11月11日(水)と毎週木曜日

会場;福山市港町 ポートプラザ南 300m 特設会場

電話;084-925-0045

## キグレサーカス『2009 ニューバージョン・サーカス・イリュージョン』

仙台公演 2009年7月18日(土)~2009年9月23日(水)

休演日 毎週木曜日

会場;グランディ・21(宮城県総合運動公園)特設会場

電話;022-767-6940

## ポップサーカス

愛知公演 2009年9月12日(土)~10月18日(日)

休演日 毎週木曜日

会場;イオンモール東浦駐車場内大テント会場

電話;0562-82-1202

## シルク・ドゥ・ソレイユ「CORTEO コルテオ」

大阪 2009年7月29日(水)~9月30日(水)

追加公演 2009年10月2日(金)~10月18日(日)

会場;中之島・新ビッグトップ 大阪・中之島 特設会場

電話;06-7732-8890

## ポリショイサーカス

神戸(兵庫)公演 2009年9月3日(木)~9月6日(日)

会場;グリーンアリーナ神戸

電話;06-6357-6800(ポリショイサーカス公演事務局)

今治(愛媛)公演 2009年9月10日(木)~9月15日(火)

会場;テクスポート今治

電話;089-915-3838(南海放送事業部)

### シベリアサーカス

2009年9月12日(土)～11月29日(日)

会場：リトルワールド(愛知県犬山市) tel 0568-62-5611

時間：平日 11:30～、13:30～ 土日祭日 11:00～、13:00～、15:00～

休演日：毎週火曜日(但し、9月22日(祝火)、11月3日(祝火)は公演。9月24日(木)、  
11月4日(水)は休演)

### モスクワイリュージョン・サーカス

2009年9月12日(土)～11月23日(祝月)

会場：姫路セントラルパーク 遊園地内「風の城」

時間：12:30～、14:30～

休演日：毎週水曜日

### O-nest 昼下がりの冗事

-Vol.3 2009年9月27日(日) 正午開演

出演：ダメじゃん小出、梅田和佐、らっぱらぱん、チーズ、EIJI、藤山晃太郎、  
VJ コミックカット

-Vol.4 2009年10月25日(日) 正午開演

出演：三雲いおり、らっぱらぱん、Kraken、EIJI、VJ コミックカット、ふくろこうじ、  
番台屋謝

会場：渋谷 O-nest tel 03-3462-4420

予約・問合せ：ACC 03-3403-0561 info@accircus.com

### スクラブ's ver.20 「コールドアモール」

2009年10月9日(金) 19時開演、10日(土) 15時 / 19時、11日(日) 14時、18時

出演：細川紘未、JIDAI、新堂雅之、島留美、ロウミン、柴田寛子、阿部邦子、平光司

会場：MAKOTOシアター銀座

予約・問合せ：PWP 事務局 scraps0903@gmail.com